

会議記録

- 1 会議名 高松市離島航路確保維持改善協議会
- 2 開催日時 令和8年6月29日（月）14：30～15：50
- 3 開催場所 高松市役所（本庁舎） 3階 32会議室
- 4 議題
 - （1）夏期ダイヤの見直しについて
 - （2）離島航路の運営費補助に係る認定申請について
 - （3）国庫補助航路における人手不足の現状と課題に関する調査結果の共有について
- 5 出席 吉峰会長、岡副会長 代理 原氏、濱委員、福井委員、
福島委員、山下委員、長谷山委員、藤川委員、國方委員、
- 6 報道機関 5社
- 7 担当課及び連絡先 交通政策課 087-839-2138
- 8 協議経過

《委員紹介》

会長挨拶

《議事1 夏期ダイヤの見直しについて》

（事務局）

資料1に沿って夏期ダイヤの見直しについて説明

（会長）

利用状況や男木島も含めた全体的な需要を踏まえた来年度からのダイヤ案だが、これについて委員の皆様からご意見、ご質問はあるか。

（委員）

海水浴客は減少している。男木島と連携して夏期ダイヤを実施していくべきである。

（委員）

最近、香川県立アリーナの効果もあり観光客が増えているため、島民が不便にならない形で夏期ダイヤを調整していただけるとありがたい。

(委員)

コロナ禍前までは、子ども連れなどの海水浴客が女木島に来ていたが、コロナ禍で香川県民の夏の過ごし方が変わった。去年も海水浴客は戻っていない。また、男木島民にとっては夏期便の恩恵がない。

高松からの「めおん」の利用客が、女木島だけではなく、男木島にも足を延ばせるよう2年前から計画をしていた。できれば今年から実施したかったが、協議会で了解をいただき、来年から実施したい。

(委員)

男木島に延伸となり、また、乗組員の負担軽減にもなるとのことではないか。

(委員)

収支状況はどのように改善されるのか。

(委員)

8月1日から8月20日までの期間であったものを8月15日までに短縮することによって、男木島まで航路を延ばしても費用的には少し下がる。

また、利用客が増えるとプラス効果があるのではないかと予測している。

(会長)

夏期ダイヤについて、見直し案のとおり、承認でよろしいか。

(一同)

異議なし

(会長)

それでは来年夏からの実施に向けて、手続きを進めていただきたい。

≪議事2 離島航路の運営費補助に係る認定申請について≫

(事務局)

資料2に沿って離島航路の運営費補助に係る認定申請について説明

(会長)

来年度の航路維持に向けた国の支援を受けるための申請について、事務局から説明があった。
ご意見、ご質問はあるか。

(委員)

過去の協議会で2回ほどお願いしているが、女木島の切符売り場を改善してほしい。
老朽化が進んでおり、観光客にとって切符売り場が分かりにくい。

(会長)

施設の管理者に、協議会として働きかけをしていきたい。

(委員)

前回の協議会で、本航路の運賃は他の航路と比較しても高くなく、また、入島税の導入は難しいということだったが、観光客の増加も見られており、燃料費や諸経費の高騰の中で運賃改定が必要ではないか。

ただ、改定をする場合は、島民の負担にならないよう配慮していただきたいと思う。

現在の運賃のまま維持していただければありがたいが、経営面の観点からはどのように考えているか。

(会長)

経費高騰の中、運賃改定について問題提起があったが、ご意見はあるか。

(委員)

まず、女木島の切符売り場についてだが、ほとんどの方が高松で往復切符を買うため、大勢の方が切符を買いに来るとは考えにくい。

地面が舗装されていないため、雨が降るとぬかるむが、現在の経営状況では弊社で整備するのは難しい。行政で対応していただきたい。

弊社は営利目的ではなく、島民の生活を支える海上交通の一環として航路を運営している。会社として運賃を上げたいとは言いつらいため、皆さんで考えていただきたい。

船員の給料は、労働に見合った給料ベースで船会社に応じた金額になっている。弊社は他の航路に比べて高いまたは低いといった金額ではない。

弊社の支出は主に3つあり、船員の給料、修繕費、燃料費である。

人件費は、4年間で15～20%程度上がっている。予想だが、今後も3～4%ベースアップになるだろう。

修繕費については、以前は修理を行うドックを選定できたが、今はドックに受入れをお願いしなければならない。「めおん」の新造船も3～4年前から造船所を探して計画した。どの造船所も5年先の話になっている。

また、昨今はドックの従業員が土日休みのため、以前は中6～7日程度で完了していた修繕等も現在では中8～10日かかる。ドックの従業員の給料も上昇しているため、工賃も2～3割上昇傾向にある。

燃料費については、4月に弊社納入業者から、「5月以降は燃料供給が困難」と言われ、直ちに運輸局及び市と協議し、現在は供給可能となっている。5月は1.6倍まで値上がりしたが、6～8月は1.3倍程度で推移するのではないかと考えている。燃料価格は、一度上がるとすぐには下がらない。運航の責務があるため、国への陳情や納入業者との交渉により、燃料の供給を維持する。

燃料高騰を理由に減便、休便はしない。

（会長）

燃料、人材不足は公共交通全般の問題であり、協議会の関係者間で情報共有し、迅速な対応ができるようにしたい。

（委員）

女木島の切符売り場の隣に「おにの館」があるが、指定管理者の契約期間が終了するため、一般公募を行っている。「おにの館」は、女木島の活性化のために建てられたが、島民、観光客にあまり利用されていない。

（会長）

利用環境を整えるため、協議会としても考えていきたい。

（委員）

女木島へのガソリン供給問題がある。4月末に高松港の最寄のガソリンスタンドが閉店し、近い購入場所が北浜町にしかない。漁師は漁船で買いに行けるが、高齢者はどうすればいいのか。当面のガソリンをどうするのがライフラインの大きな問題であり、自治会などでも話が出るが難しい。できるなら雌雄島海運に運んでほしい。

（会長）

前回の協議会でも同様の話があり、ガソリンを雌雄島海運に運んでももらえないかということだが、法規制の関係で旅客の人数制限等様々な問題があり、難しいという話になっていた。

（委員）

運搬の問題もあるが、備蓄についても、ドラム缶での保管は認められないため、地下タンクを作らなければならない。

（会長）

法規制の関係があり、この協議会だけでの議論は難しいが、高松市として考えなければならない。

(委員)

「めおん」の観光航路は今後も維持してほしい。「めおん2」も新しくできるため、子どもたちの利用も考慮し、バリアフリーの乗りやすい船をお願いしたい。

(委員)

新造船の計画は進んでおり、8月頃に契約したいと思っている。今はまだ検討段階だが、子どもたちが本航路を利用して通学することもあるため、勉強用デスクの設置も考えている。

島民の方に喜んでいただけて、観光客にもおもしろいと思われるような船を目指したい。

(会長)

子どもたちにとって夢のある設備ができればいいと思う。

一連の申請は事務局に一任したいと思うが、よろしいか。

(一同)

異議なし

≪議事3 国庫補助航路における人手不足の現状と課題に関する調査結果の共有について≫

(委員)

資料3に沿って国庫補助航路における人材不足の現状と課題に関する調査結果についての説明

(会長)

人材不足の厳しい状況が読み取れるが、どうか。

(委員)

離島航路は、国庫補助を受けずに運営している事業者と国庫補助を受けて運営している事業者があるが、補助を受けている事業者は費用の関係で、できることが限られている。

九州や沖縄、五島列島などは減便になっている。

できれば予備船員の確保を認めてほしい。現在7名体制だが、1名欠員の状態であるため、船員が有給休暇をとることができない。

陸員と兼任の予備船員がいれば有給休暇をとることができ、また、陸上のパートの勤務時間を減らして陸上業務の支援をしてもらうこともできる。

また、離島航路で働くのは、離島にゆかりがあり、地元のことを知っている船員がいいと思う。島民とコミュニケーションがとれるため、何かあっても解決しやすい。

しかし、島の人口が減っていく中で、島ゆかりの船員を増やすことは難しい。運輸局で募集すると、他県からの応募が中心となるため、居住の確保等が必要となり、費用がかかる。

国の許可上、島発の航路であるため、船員は男木島の専用宿舎で寝泊まりしている。

（委員）

子育て世代の若い船員は、宿泊よりは家に帰りたいという話を聞いている。発着点についても考えてほしい。若い人材を確保するためにも運航スケジュールを改善するなど、見直していただきたい。

（委員）

サンポートができた時は、高松港泊はできなかった。今は、高松港で停泊している船会社もある。また、高松発だと船員の労働時間が40分長くなる。

（委員）

労働時間が長くなっても、子どもがいる方は高松の自宅に帰りたいのでは。

（委員）

課題として検討したい。

（会長）

この話は以前から出ており、船員を確保する上で、若い世代の生活スタイルに合うような条件が求められる。

（会長）

先程の話だが、始発を高松側にすることについては、国で議論はあるのか。

（委員）

高松発着にすると、その分費用が発生するため、収支状況を出していただき、本省と相談となる。

（会長）

制度上できないというわけではないのか。

（委員）

補助航路であるため、船舶運航計画を変更していただき、収支状況等を見て総合的な判断になる。県や市も補助金を出しており、国の予算も限られている。

（会長）

費用面もあり、人員確保は公共交通全体の重要課題である。国や県、市、運航事業者、地域住民

が揃って協議会を立ち上げているため、関係機関がそれぞれできることを検討していかななくてはならない。引き続き議論を深めていければと思う。

(委員)

まずは夏期ダイヤの見直しを実施し、反響を見るのがよいのでは。

(委員)

今後も、本航路は減便しないという気持ちである。

(会長)

将来に渡って人材を確保するには、関係者が協力していかなければならないため、ご協力をお願いしたい。

(一同)

異議なし

《その他》

(会長)

次第3、その他だが、何かご意見はあるか。

(一同)

異議なし

(会長)

特にご意見がないため、進行を事務局にお返しする。

(事務局)

以上をもって、本日の協議会を終了させていただく。

《閉会》